

# 平成25年度 児童養護施設 事業報告

3つの課題にとり組みます

- 1 学力の向上をはかる（生きる力を身につける）
- 2 子どもの命と人権を守り育む
- 3 安心安全な環境づくりに取り組む

## 1. 学力の向上をはかる

### (1) 学習ボランティアによる個別学習

小学生男子28名中8名 女子18名中5名 中学生男子 12名中7名 女子8名中3名が受講し基礎学力の向上を図った。

学習ボランティア（17名 H25.3.31現在） 学習習慣が身についてきた。ボランティアとの学習状況に関する細かな連携が必要。

### (2) 通塾による高校進学にむけた能力の向上

中学生男子2名 女子1名 学力の比較的高い児童に進学塾を活用。全員が500点中350点以上の成績を常時おさめている。25年度は国立高等専門学校への合格児童も出た。直近3年間では偏差値65～69の学校へ進学が3名。一方進学塾の厳しい内容についていけず2名の児童が退塾した。

### (3) 学力遅滞・低学力児への対応

仲よし学級49名中13名（天小）支援学級23名中8名（天中）生活意欲や登校意欲を持たせることを優先し、クラブ活動など特性を生かすことに力を入れたが、小学生については、学校で習ったことが理解できず宿題でのイライラも多くあった。療育手帳B2取得の児童も5名おり 低学力に対する学校との連携と家庭教育が課題。

### (4) 幼児の発達への課題に取り組む

絵本の読み聞かせボランティアの活用により、絵本を読んでもらうことの楽しさ、聞く態度が着実に身についている。読み聞かせボランティア（綿の花月2回・ゴマだんご隔月・地球お話し村隔月）

学習指導員は2名から1名に減り習得レベルは低くなった傾向にあるが学習時間は落ち着いて取り組み 学習習慣が身についてきている。

## 2. 子どもの命と人権を守り育む

### (1) セカンドステップ・コモンセンスペアレンティングの継続実践と応用

CSPについては職員・児童ともプログラムに基づく実践が恒常的に行われ 感情のコントロールなど暴力・暴言を用いない養育のスキルが定着しつつある。職員の習熟度や昨年に比べ実践ともに向上している。

しかしながら、職員による児童への不適切なかかわりがあり、当該児童へのケアと職員への指導および園としての課題について大阪市へ改善報告を行った。

### (2) 被措置児童等虐待を防止するための取り組み

自治会での勉強会や個々の悩みや困っていることについて話し合いを重ねた。権利ノートの配布と説明や「いじめ」「暴力」などについての話し合いを行った。

心理士による高齢児の意見の汲み取りを行い 早期発見につなげた。

### (3) 性教育の実施

気持ホット委員会を中心に定期的な取り組みを実施。

しかしながら高齢児の性を取り巻く環境は悪化の一途をたどり、スピードに追い付いていないのが現状である。人権擁護の観点からも早急な対応が必要である。

### 3. 安心安全な環境づくり

#### (1) 生活単位・施設の小規模化の推進

##### ①地域小規模児童養護施設

洗心館・・・(男子中現高生4名 小学生2名・職員住込み2名 常勤1名 非常勤1名)

暴力や威圧をなくすために生活の中で徹底した話し合いや、CSPを基盤にルール作りを積み重ねている。また対話に努め個々の情緒の安定を図ることで感情をコントロールすることができてきた。さらには個別と集団の特性を生かしつつ両立をさせていく。

河堀荘・・・(中学生女子1名 小学生女子3名 男子2名・職員 住込み1名、常勤2名 非常勤1名)平成25年4月スタートし1年が経過。

子ども間で暴力問題が発生すれば、その日のうちに全員で解決に向けて話しあい、どんな些細なことでも見逃さない強い気持ちで実施している。

食事・・・両施設とも自炊であり食べるだけでなく作ることへの興味も出てきた。

また食材や調理方法を工夫することで苦手な食べ物を食べる経験を積むことができた。

本体の相互理解と支援連携が必要であるとの経験から 本園の行事への参加や 各種会議等への出席 日々の連絡調整など意識的に行いチームとしての支えあいを重視した。

##### ②仮称第2四恩学園整備工事の着工(平成25年11月～平成26年10月末)

平成26年11月完成予定。小規模グループホーム2か所(6名×2) 6人+5人ユニット1か所 8人×2ユニット2か所(32名)計55名 本館95名

#### (2) 安全安心な環境作りと問題発生時の対応

##### ①生活空間の設備整備

修繕化箇所の早期発見早期対応を心掛け修理い何いの一元化をはかり、職員の安全に対する意識向上につながった。(危険の予知・重大化の防止)園内の設備の欠陥等での事故やけがは減少している。

##### ②災害・事故予防の訓練が実施

災害訓練については、防火訓練のみ実施。防災については実施できず、26年度4月より防災委員会設置。

防火防災マニュアル・感染症マニュアル・事故予防マニュアルを見直し平成26年度7月にある第三者評価受審に向け作成中。

#### (3) 児童のスポーツ活動支援

小学生 サッカー6・ソフト12・柔道8・ミニバス6 小学生52名中32名

中学 陸上10・野球3・柔道1・パソコン4・家庭科3・美術1中学生22名全員

高校 野球・硬式テニス・サッカー・ダンス・・・バスケット・写真・柔道・家庭科

高校生21名中15名入部

#### (4) 食育の取り組み

嗜好調査の実施-食事に満足している ハイ75%(47%) イイエ22%(38%) その他3%(15%) ( )内は職員

非常食調理実習の実施(2回)

各部署で子どもと一緒に食事し 子どもからの感想や食事の様子を報告した

## 4. 施設・職員の組織再編強化（チームワークとリーダーシップづくり）

### (1) 階層別研修の実施

管理職の組織のリーダーとしての運営管理職員研修（主任・副主任 年5回実施）

中堅のリーダーシップを育てる（年3回リーダー研修実施）

サブリーダー研修（3年～5年の職員対象 年3回）

信任職員研修（1年～3年までの職員 年2回）

### (2) 職員間の意志疎通・他部署児童への接触・他部署の理解を深める

職員相互の親睦会の再開。階層別園内研修の実施 交換研修の実施

### (3) 専門職（心理士・家庭支援専門員）の充実

①家庭支援専門相談員・・・自立支援計画の共有化と保護者に対する予防的な関わり  
・引き取り（再統合）

家庭引き取り12名・里親委託7名・自立5名・措置変更1名

保護者が児童を支配下に置いてしまう親対応は困難を要し、高齢児の本人の意向が先行してしまうと修正がきかず見通しの甘い退所となるケースもあった。

#### ②心理

・心理判定実施数24件

・心理療法（面接・セラピー・SST）20件

・中高生との「ふれあいタイム」毎週1回3時間

子どもへの支援方針や指導方法などケース会議等を通じ、特に心理的なアプローチが必要である子どもに対し、日常と切り離れた空間の中の成長やきづきについて協議を行った。

## 5. 地域との関わりの強化とボランティアの活用

大江幼稚園・天王寺小学校・中学校区を地域と捉え、各学校・PTA・連合町会・青年会など地域における諸行事への主体的参加(祭り・イベント・盆踊り)や地域クラブ活動指導者・PTA委員・学校協議会評議員・区子供会 役員などの役割を遂行した。卒園生が築いた地域での関係を基礎に一定の成果が上がっている。

今後の課題は施設が地域の社会資源として存在を示すことが重要である。

## 6. 改修・設備・備品購入関係

建て替えに伴う事務所の移転にかかる費用 350万